

## 妊孕（にんよう）性温存療法に関する相談

### 1. 妊孕性温存療法

深谷赤十字病院では、地域がん診療連携拠点病院として、小児がん、※<sup>1</sup>AYA 世代のがん患者様の治療及び支援やがんゲノム医療について情報提供を行う役割を担っています。その中で小児、AYA 世代のがん患者様の妊孕（にんよう）性温存療法に対する相談と意思決定支援の体制を整備しました。これらの世代のがん患者様は、さまざまながん治療によって※<sup>2</sup>妊孕（にんよう）性が失われる可能性があります。当院は、埼玉県のがん生殖医療ネットワークに加入し、がん治療を行う診療科から医療相談課を通して生殖医療実施施設を紹介することにより、妊孕（にんよう）性温存療法及びがん治療後の生殖補助医療に関する情報提供及び意思決定支援を行って参ります。

※<sup>1</sup> AYA 世代とは、思春期および若年世代（15 歳～39 歳）を指しています。

※<sup>2</sup> 妊孕（にんよう）性とは、「妊娠する力」のことを意味します。がん治療の影響によって妊孕（にんよう）性が失われたり、低下することがあります。

### 2. 相談窓口

相談支援センター（医療相談課） 内線 1123・1124

（医療相談課の場所は下記地図を参照）

医師からの診断および妊孕性温存療法についての説明を受けた後に治療をご希望される方は、相談支援センターまでお越しください。

### 3. 担当者

看護師 4 名（緩和ケア認定看護師・がん相談員基礎研修終了者・心理相談員・医療対話推進者研修終了者）

※ お一人で悩まずに気軽にご相談下さい。

